

留 学 報 告 書

平成 29年 5月 17日

学 部 総合理工学部 学科・課程 機械電気・電子工学科

氏 名 佐々木守

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 フロリダ大学

現地到着日 (2016年 8月13日)

授業開始日 (2016年 8月21日)

現地出発日 (2017年 5月6日)

授業終了日 (2017年 4月22日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

主な手続きとしては、TOEFLの受験、VISAの取得、フロリダ大学に送る書類・手続き、アパートの確保などが挙げられます。TOEFLやVISAについては手続きを始めてから実際にスコアやVISAを取得するまでに時間がかかるので、早めに準備を始めることをお勧めします。書類手続き等についても健康診断・予防接種に時間がかかる上に手続きは全て英語で行われるので早めの準備が必須です。健康保険は大学のホームページに載っているプランが価格も安く手続きも簡単なのでおすすめです。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

成田空港から飛行機で一度カナダのトロントへ向かいそのあとフロリダのオーランド国際空港へと向かいました。トロントでの待ち時間が16時間ほどあったので成田空港からオーランド空港まで一日半ほどかかりましたが、成田からトロントまでのフライト自体は12, 13時間ほどでした。オーランド空港からは友人に迎えに来てもらい空港から2時間ほどでフロリダ大学に到着しました。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

日本を出発する前にほとんどの手続きを終えているので、到着後の手続きはオリエンテーションに参加することだけでした。私の場合は予防接種の証明に不備があり学内で一度予防接種も受けました。手続きとは関係ないですが、オリエンテーションのついでに学内を回っておき、学期が始まる前に一度自分の受ける授業

の教室の位置を把握しておくが良いと思います。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションの内容はフロリダ大学での学生生活における簡単な注意事項や学生証の発行手続きなど
でした。英語能力等のプレースメントテストは特にありませんでした。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

ほとんどの授業は50分のクラスが週3回あり、交換留学生は最低12単位分、4つの授業を受けなければなりません。課題の量は島根大学の同様の授業よりも多いように感じました。Public SpeakingやInterpersonal Communicationなど多くの学生が受講する授業は多くのセクションを持ち、一人の教師に対して学生20人程度の規模で授業が行われるようになっていきます。教師に対する学生の数が少ない分、授業中の議論がより自由に頻繁に行われるので積極的に議論に参加していくと英語運用能力の向上につながると思います。またコミュニケーション系の授業ではグループプレゼンテーションが頻繁に行われます。グループワークをする間はアメリカでの電話番号等を持っていなかったためFacebookのメッセージャーを利用してグループメイトと連絡を取っていました。Writingの授業については履修登録の時点で単位取得に必要なWritingの単語数がわかるようになっているので大まかな課題の量を確認してから履修登録すると良いです。試験については全て又は大部分が選択問題になっているので中間・期末テストは島根大学で受けたものより簡単に感じました。また、基本的に日本より留学生の数が圧倒的に多く先生も留学生の対応に慣れているので、わからないことがあれば積極的に相談していくとスムーズに授業を受けることが出来ると思います。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私はIntroduction to Public Speakingを勧めます。Public Speakingでは基本的なスピーチの構成の仕方や話し方などを学びました。人前での話し方を一学期分通して基礎から学ぶという機会は今までなく、個人的には出来て当たり前のように扱われる機会が多くあったのですが、授業として学びなおしてみると効率的なプレゼンテーションの構成が出来ていなかったり、補足資料が見つらかったりと新しく気づくことが多くありました。個人的にはプレゼンテーションの仕方などは独学で学ぶべきもので大学の授業で改めて取り扱うべきもので

はないように感じていましたが、大学で取り扱うだけの知識と技術を必要とする分野であることをこの留学期間を通して気づかされました。また各学期、5回ずつスピーチを行う機会があり、それだけ人前で話すことに慣れることが出来るのも魅力的です。基本的には全学生向けで特に留学生向けという事はないので、挑戦的になるかもしれませんが英語でのスピーチだけでなく日本語のプレゼンテーションを構成するうえでも参考になる授業だと思います。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私は留学準備の段階で大学内の友人にアパートを見つけてもらいキャンパス外のアパートに住んでいました。アパートはルームシェアが基本ですが、自分の部屋を持つことが出来、大学内の寮では個室を持つことは出来ないようです。また大学内の寮は家賃が比較的高いようです。もし留学準備の段階でアパートを見つけることが可能であれば、アパートをお勧めします。ただルームメイトは友人と一緒に契約をしない限り、ランダムに選ばれるのでそのことを踏まえたうえでアパート選びをしなければなりません。一方で学生寮は大学を通して契約ができるので自分で準備を進めることが出来ます。もしアパートを見つける当てがなければそちらをお勧めします。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

私のアパートはメインキャンパスから1,2キロ程度の場所にありました。基本的には大学周りを走っているバスを利用すれば大学・住居間の往復に困ることはありませんが、キャンパスの大きさも踏まえると自転車があった方が便利かと思います。またスーパーマーケットは割と大学から遠い所にあるのでルームメイト等に買い物に連れて行ってもらえるよう頼んでおくと、簡単に日用品をそろえられると思います。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

基本的に買い物等の支払いはクレジットカードで行うので、現金が必要な場面はあまりありませんでした。ただいざ必要になった場合に全くないと困るので、現地の銀行口座を用意しておくといいかと思います。また日常生活でパスポートが必要な機会はあまりなかった（酒類を購入するときくらい）のでパスポートはあまり持ち歩かず安全な場所に保管しておくと思います。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

基本的にはHUBにあるInternational Centerに行くとはわからないことには答えてもらえるか、解決できるところまでのアクセスを教えてください。メインキャンパス内にはLibrary West, Marston Science Libraryの二つの大きな図書館があり私は主にその二つで課題等を行っていました。また学内にはWriting Studioという学生向けのWritingのチューターシステムがあり予約をすれば大学院生が課題の添削をしてくれます。私は課題を書く上で文法や語彙に自信がない時は積極的に利用していました。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

食料品・日用品の調達は毎週ルームメイトが行くときに一緒に連れて行ってもらって、基本的にPublixでしていました。ただ私の交換留学が終わってすぐに大学のすぐそばに新しいPublixが出来たので、住む場所次第ではそこが交通の便が良いのではないかと思います。銀行は学内にWells Fargoがあるのでそちらを利用するのがお勧めです。レストランはファーストフードレストランが学内に多くあり、University AvenueやArcher Road沿いにもいくつかレストランがあります。理髪店はDowntown近くのサロンを利用していました。簡単な短髪にしている分には特に理髪店で困るということはありませんでした。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

留学の始めの方でクレジットカードが限度額に達してしまい、使えなくなることがありました。そのときにWells Fargoで口座をつくり、日本から送金してもらうことでその後二ヶ月の出費を負担しました。フロリダ大学にはNaviGatorsという留学生向けのシステムがあります。留学生一人をアメリカ人学生一人が担当して相談を受けるというもので、このときも銀行口座の開設に協力してもらいました。各学期の始めに応募の確認が来ると思うのでもし不安があれば登録しておく方が良いと思います。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

病気になった場合は学内のStudent Health Serviceへ行けば診察してもらえるはずです。ただ軽い風邪程度は日本から持参した風邪薬を飲んで対応していました。健康保険については留学準備の時点で入らなければならないので、特に新たに入る必要はないと思います。

15. お世話になった方々

友人，ホームステイファミリー，教授，NaviGatorsの学生等多くの人にお世話になりました。

16. 留学先国内旅行について（場所，手段，費用，旅行社等）

学期中はジョージア州とノース・カロライナ州へ友人と車で，学期が終わった後は帰国前にユタ州とカリフォルニア州へ友人を訪ねに行きました。学期中の旅行は1万円程度，学期後の旅行は飛行機代で6万円程度かかりました。ただ宿泊は友人宅だったので宿泊費はかかりませんでした。また観光というよりは友人を訪ねにいっただけだったので普通に国内を観光するよりかかる費用は少なかったのではないかと思います。

17. 気候と服装について

一年を通して島根より暑い気候です。12月でも気温が30℃近くなる日もありました。ただ冬は日によっては10℃以下になることもあったので荷物に余裕があれば冬用の服装も準備しておけると良いと思います。また大学の教室内は冷房がしっかり効いていることが多いので，重ね着できるものを持ち歩いておく方が良いと思います。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品，衣服，食品，薬，運転免許証等）

風邪薬等は比較的値段の張るものが多いので日本から持参しておく方が良いと思います。また私の場合は本当に多くの人にお世話になったので，お礼に渡せるようなお土産を余分に持ってきておけば良かったな，と思いました。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

特にありませんが，もし自分の専攻とは全く違う授業を受ける予定なら，自分の専攻の専門書を自習用に持ってきておくの良いかもしれません。

20. ホームステイの依頼方法

以前フロリダに来た際にホームステイをさせて頂いた家庭にそのまま連絡して何度かお世話になりました。また友人の実家にも何度かお世話になりました。基本的には連絡先を知っていたので直接ホームステイが出来るかどうかを伺いました。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>20万</u> 円, (復) <u>7万</u> 円
2) 準備費用	<u>10万</u> 円
3) 大学へ納入する費用	<u>57.5万</u> 円
授業料 (年間合計)	<u>53万</u> 円
保険等その他の費用	<u>4.5万</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)	<u>62万</u> 円
5) 衣服代, その他雑費	<u>6万</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	<u>8万</u> 円
7) 留学先国内旅行費用	<u>8万</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	<u>190万</u> 円
現地通貨 <u>17300\$</u> 日本円換算 <u>190万</u> 円	

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

渡米の際に持参したキャリーバックは一つほどだったので入りきらない荷物は全て郵送しました。UPSに比べて郵便局の方が海外への郵送は値段が圧倒的に安かったのでお勧めです。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

まず, 英会話能力は大きく向上したと感じています。英語でしか意思疎通の出来ない環境に身を置くことで嫌でも英語での会話には慣れてしまいますが, その上で授業中や普段から積極的に人に話しかけて, 言葉遣いを真似していくことでより大きく会話能力を向上できたのではないかと思います。また英語に限らず議論をすることにも留学前に比べて慣れた様に思います。日本でこれまでに受けた授業と比べて先生との議論または学生間での議論を基に授業が進められていくことが多かったので, 能動的な授業の受け方というものが身につきました。現地の文化の多様性からは広い視点を得ることが出来ました。様々な国からの留学生と出会い考え方の違いに触れることで, その国の文化に依存した価値観や, 逆に自分のどのような考え方が日本の文化にどのように影響されているのか考える機会を, 留学期間を通して多く得ました。また工学部の4回生としてはこれから先, 工学のより専門的な分野に関わっていく上で, 1年間工学から離れて全く違うことを勉強してみる機会を得たことはとても価値のあることだと感じています。専門性が上がるにつれてどうしても学ぶ分野が狭くなっていってしまうので, この留学で学んだことは今後の学生生活で私の視野を広く保つのに役立ってくれると確信しています。逆にできなかった, 得られなかったこととしては, 専門的な分野を留学先で学ぶことが出来なかったことが挙げられます。専門外のことを学べたことは確かに良い経験になりはしましたが, 海外で自分の専門分野を学ぶことが出来たのならば, それこそ将来, 国境を越えて活躍していくその

足掛かりとなるような経験になり得たと思います。そういう部分では、登録できる授業の制限が歯がゆくありました。全体を通して、1年ではやり切れなかったことなどもありましたが、それでも自分の将来を考えていく上での糧となるような経験を得られました。